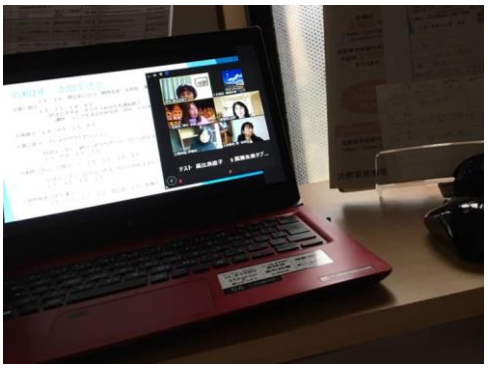
関西支部　2020 年度　交流会報告（オンライン開催）

今年のテーマは、「終活のすすめーそろそろあなたも適齢期？ー」とし、シニア文化研究所所長の小谷みどり先生のご講演、その後、グループに分かれ2回セッションを行い、賛助会員皆様の感想及び先生の講評をいただくということで準備を進めました。特に Zoom での交流会については、事前の準備と練習が必要で、7 月から何度もメールやオンラインで打ち合わせを重ねました。

＜第一部＞

賛助会員16名、運営委員や相談員協会の皆さま合わせて40名のご参加をいただき、まず講演会をオンラインで行いました。全体の流れ等を予め用意していた資料を画面共有しながら、講演をお聞きし、またグループに分かれて討議するというものです。



小谷先生の方から、グラフやデータに基づいて、ひとり暮らしの高齢者が増加し、生涯未婚率が急増（今年 55 歳で未婚の人は 1/4 に）していること。一方で長生きする人が増えているが80歳以上の男性は「女性に比べて」少ないことや、ここ 20 年で家族の住まい方暮らし方が大きく変化していることを示されました。一人暮らしの特に男性は社会的な孤立状態となり介護も受けらずゴミ屋敷化、亡くなっても誰の遺骨か分からないという悲惨なことも起きています。欧米はライフスタイルに合わせて住みかえますが、日本人は家族同じ家に住む文化のまま、意識が変わらず様々な社会問題を引き起こしています。

さらに、お墓をめぐる現代的問題の一つ、子孫や血縁のネットワークの弱体化で無縁化が進んでいることなどを挙げ、たとえば、レンタル、血縁を超えた人たちでお墓を共有する方法なども現実的なこととして示されました。葬式は何のための儀式なのか、改めて最初のデータを振り返り、女性の 4 割は 90 歳を超え、家族も年老いて家族葬にしかならない現実を示されました。

元気なうちに考えておくことが必要で、たとえば、尊厳死について意思表示しておくなど、この 20 年で大きく変わった終活、自分の墓のことまで考えなければならないほど、大きくライフスタイルが変わっていることをお話くださいました。

＜第二部＞

グループ討議は、7つのブレイクアウトルームに分かれ、各グループの進行を予め運営委員で決めて、2 つのテーマでメンバーを入れ替え意見交換していただきました。グループ分け前にテーマに対するご自身の意見を考えメモする時間をとり、その後グループに分かれて討議しました。

グループダイアログ（対話）①のテーマは、「親の『終活サポート』何から始めますか？（始めましたか？）」
グループダイアログ（対話）②のテーマは「自分の『終活』何から始めますか？」
全体のセッションからグループに分かれると、画面上での数名のやり取りになり、感想や現在のそれぞれの状況、取り組まれていることやそれに対する意見などで、有意義な交流会となりました。いずれも、個人的な事情もそれぞれで、デリケートなことでもありますが、なかなか改めて真剣に考えてこなかったこともあったなど、親の介護、葬儀、家の問題、家族、デジタル遺品の問題について意見交換ができました。



最後に全体セッションの場に戻り、賛助会員の方々を中心に個人の感想を発表いただき、講師の小谷先生の講評や感想を頂きました。
とくにダイアログ②の自分のことについては、まだまだ先のことと思っている人が多いが、親が先に亡くなるとは限らない。いつ何が起こるかわからない。「延命」については今すぐ考え意思表示しておくべき。また、独居の場合自宅で亡くなった場合は、鍵を開けたり、立ち会う人等を頼める人を見つけておくなど＝自分のリスクヘッジが大事！ということを力説されました。葬儀や墓なども、根拠のない風習ではなく、時代の変化を見据えて考えなければならないことも改めて意識できたのではないかと思います。お墓については共同墓というプランも出ました。
なお、進行に当たり、待機時にはバックミュージックを入れ、事前配布資料を画面共有しわかりやすくアマビエのイラストを入れるなど、支部運営スタッフのメンバーの創意工夫を行い、リアル開催に負けない演出を考え、役割分担や打ち合わせを綿密に行いました。テーマも本当にこれから真剣に一人ひとりが考えるべき問題で、討議はそれぞれのグループで盛り上がり、新たな視点をいただくことができました。ご参加いただきました皆様、ありがとうございました。